

修士論文（要旨）
2014年1月

中国の日本語教科書における「断り」について

指導 堀口純子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
212J3001
王立熊雄

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究動機・背景	1
1.2	研究目的	2
第2章	先行研究	3
2.1	「断り」とは	3
2.2	「断り」に関する先行研究	3
2.3	日本語教科書における「断り」に関する先行研究	3
2.4	中国の日本語専攻の教科書使用状況	4
2.5	中国の日本語教科書に関する研究	4
2.6	先行研究の問題点と本研究の位置づけ	5
2.7	意味公式について	5
第3章	教科書における「断り」に関する調査	7
3.1	教科書選択基準と理由	7
3.2	調査対象	7
3.3	調査方法	8
3.4	調査結果	9
3.5	分析の枠組み	10
第4章	分析と考察	11
4.1	教科書における「断り」に関する解説	11
4.2	教科書における「断り」に関する例文	13
4.2.1	各教科書の例文の意味公式	13
4.2.2	例文の取り扱い状況のまとめ	19
4.3	教科書における「断り」に関する会話	20
4.3.1	「断り」会話の場面設定	20
4.3.2	「断り」会話の行為要求	28
4.3.2.1	「断り」の対象となる行為要求の種類について	28
4.3.2.2	「断り」会話の行為要求のまとめ	35
4.3.3	「断り」会話の意味公式	37
4.3.3.1	意味公式の使用状況	37
4.3.3.2	「断り」会話の意味公式のまとめ	50
第5章	教科書の問題点について	53
5.1	教科書の問題点とその改善案	53
5.2	日本語教育への示唆	55
第6章	おわりに	57
6.1	まとめ	57
6.2	今後の課題	58
	参考文献	
	資料	

キーワード 【日本語教科書、断り、断りの意味公式、会話の場面設定、行為要求】

「断り」という言語行動は配慮表現に属し、相手に不愉快な思いをさせてしまう恐れがあると思われる。稿者は来日前に教科書で日本語の断り表現について勉強したが、来日以来、日本語母語話者にうまく断れないことがよくあった。これまでの「断り」に関する研究では、日本語母語話者や外国人日本語学習者を対象とした研究が多い。日本語教科書の「断り」に関する研究はあまり見られない。そこで、本研究では、中国の高等教育機関の日本語専攻の学習者が使用している教科書を対象として分析を行った。調査対象とした13種類、42冊の教科書のうち、総合型教科書は30冊あり、会話教科書は12冊ある。教科書における「断り」の取り扱い状況を捉え、「断り」の解説、例文、会話に関する記載の特徴を把握し、その問題点を解明し、教科書の編集についての改善案を探りたい。

結果として、まず、日本語教科書に「断り」の使い方に関する解説はほとんど記載されていないことがわかった。本研究で調査した42冊のうち、解説の記載がある教科書は『総合日語Ⅲ』一冊のみであり、友達や親しい人の頼みを断る方法についてのみ解説している。ほかの教科書では、解説が文法説明である場合が多く、「断り」という発話行為に関する解説が見られなかった。

そして、「断り」に関する例文が48例あり、すべてが会話教科書に記載されていた。これらの例文では意味公式として「理由」、「結論」が多く使用されていることがわかった。それに、これらの「断り」例文には、文法的には間違いがなくても、コミュニケーションの視点から不自然な例、非常に強い「断り」の例も見られた。学習者はこのような教科書の例文を用いて日本語母語話者と接触すれば、問題が生じやすいと考える。

次に、「断り」会話の場面設定は、会話が展開されている状況、登場人物、会話が行なわれている場所などの3点が、主な視点になっていることがわかった。会話が行なわれている時間や登場人物の年齢を設けている教科書も少数あった。

また、「断り」に関する会話の行為要求においては、会話教科書には、「依頼」と「誘い」に対する「断り」会話が同程度多いことがわかった。ほかの行為要求に対しての「断り」会話もかなり見られた。総合教科書には、「許可求め」に対する「断り」会話が最も多く書かれており、「誘い」、「勧め」に関する会話も多く見られたが、「依頼」、「指示・命令」、「忠告・助言」に対しての「断り」会話がほとんど記載されていないことがわかった。これまで「依頼」に対する「断り」の先行研究が多くなされてきている。これは、現実の生活において、「依頼」を断る場面が少なくないからであると考えられる。しかし、総合教科書には「依頼」に対しての「断り」会話がほとんど見られないので、これは改善すべきではないかと考える。

最後に、「断り」会話においては、2つ以上の意味公式を組み合わせる断る例が多いことが明らかになった。意味公式の組み合わせはさまざまであり、定型的な断り方は見られなかった。そのうち、「理由」、「結論」が最も多く使用されており、「関係維持」、「感謝」、「回避」、「共感」などの使用回数が少ないことがわかった。

以上の分析により、教科書における「断り」に関する記載の特徴や問題点が見られた。日本語学習者にはこのような教科書を通して、「理由」や「結論」などの意味公式がより深く印象に刻まれてしまい、日本語の婉曲的な「断り」ストラテジーを習得することが難し

くなるのではないかと懸念される。そして、日本語学習者は口頭でのコミュニケーション能力を養成するだけでなく、書く場面での能力の養成も重要である。特に、ビジネス場面では、現場で相談するほか、メールでやりとりする機会が少なくないため、書面での「断り」をうまく使用する能力も求められているだろう。だが、本研究が用いた教科書には、書く場面での「断り」表現が見られなかった。したがって、教科書には、「断り」に関する会話のような話しことばの記載のほか、書く場面での「断り」の記載も必要である。書く場面での「断り」表現を日本語教育に取り入れ、総合的な日本語能力を育成すべきであると考えられる。

本研究では指導の材料としての教科書の内容について検討しただけである。今後は、教科書の使用者としての教師や学習者が教科書に記載されている「断り」をどのように評価するのかを調査し、分析する必要があると思われる。その結果を基に、中国の日本語教科書における「断り」の編集法につなげていきたい。

主な参考文献

- 生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー—「断り」という発話行為について」『日本語教育』79号，日本語教育学会，pp. 41-52
- 伊藤恵美子（2006）「日本人は断り表現において丁寧さをどう判断しているか—長さと適切性からの分析—」『異文化コミュニケーション研究』18，神田外語大学，pp. 145-160
- 王源（2011）「「詫び」と「理由説明」から見た断り行動—日中対照—」『日本語教育研究』57，長沢スクール，pp.83-93
- 小野由美子・劉玉琴（1998）「日本語教科書における断り表現の取り扱い」『鳴門教育大学実技教育研究』8，鳴門教育大学，pp. 75-79
- カノックワラオハブラナキッド（1995）「日本語における「断り」—日本語教科書と実際の会話との比較」『日本語教育』87号，日本語教育学会，pp. 25-39
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
- 清水勇吉・趙塔娜・ブロイヤールビクトリア（2011）「誘いに対する断り表現について」『徳島大学国語国文学』24，徳島大学，pp. 79-99
- 竹本紗世（2011）「『言いわけ』にみる配慮の表現—『断り』談話にみる言いわけ—」『東京女子大学言語文化研究』20，東京女子大学，pp. 57-73
- 藤巻和代（1996）「中国語話者と日本人の日本語による「誤解」—断りの表現を中心に—」『言語科学研究. 神田外語大学大学院紀要』2，神田外語大学，pp. 143-156
- 藤森弘子（1996）「関係修復の観点からみた「断り」の意味内容—日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較—」『大阪大学言語文化学』5，大阪大学，pp. 5-17
- 堀口純子（1997）『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- マスデン真理子（2012）「曖昧な「ちょっと」は丁寧か？—言わないことと聞き手の負荷をめぐって—」『熊本大学国際化推進センター紀要』3，熊本大学，pp. 63-75
- 水本光美・福盛寿賀子・高田恭子（2009）「日本語教材に見る女性文末詞—実社会における使用実態調査との比較分析—」『日本語とジェンダー』第9号，日本語ジェンダー学会，pp. 12-24
- 蒙韞（2008）「中国人日本語上級学習者の語用論転移の—考察—依頼に対する断り表現のポライトネスの表し方から—」『国際開発研究フォーラム』第36号，名古屋大学，pp. 241-254
- 守屋三千代（2003）「日本語の配慮表現—中国で作成された日本語教科書を参考に—」『日本語日本文学』13，創価大学，pp. 37-50
- 山本直美・尹貴男・栗原玲子他（2005）「断りの「Xはちょっと…」に関する考察—日本語教科書の分析から—」『待遇コミュニケーション研究』(3)，待遇コミュニケーション研究会，pp. 47-61
- 吉井千明（2009）「断り表現—親しさの度合いに注目して—」『東京女子大学言語文化研究』18，東京女子大学，pp. 70-86